

# 第68回・第70回委員会 での丹生ダムに関する 主な意見

1

## ○代替案の検討について

- ・ 貯水容量4000万m<sup>3</sup>を琵琶湖岸浚渫で確保できないか。  
ヘドロの浚渫は環境にもプラスである。  
→琵琶湖沿岸の浅場でヘドロ等の体積はない。
- ・ 内湖復活によって異常渇対容量を確保できないか。  
→干拓以前の内湖総面積は約30km<sup>2</sup>(約6000万m<sup>3</sup>)  
であり、復活には莫大な事業費が必要。
- ・ 内湖や水田を活用した琵琶湖への有機物の流入軽減  
により貧酸素化の改善にも貢献できるのではないか。  
等

2

## ○異常渇水対策について

- 取水制限の早期実施、下流の維持流量の削減等により異常渇対容量は不要にならないか。
- 内湖復活、維持流量削減等は河川法の枠組みを超えた流域管理の話であり委員会の役割の明確化が必要。
- 維持流量については、具体的な河川機能、必要流量を河川管理者はきちっと説明する必要がある(第70回)。
- 取水制限の早期実施等を社会実験的な取り組みで導入することはできないのか(第70回)。

等

3

## ○環境対策について

- 魚類は農水路を活用して瀬切れを回避している。農水省や土地改良区と連携した対策が検討できないか。
- 丹生ダムの環境への影響について姉川ダムの現状を参考にできないか。
- 河床掘削しても土砂の供給と流動が維持されれば魚類にとって良好な環境は維持できるのではないか。
- 瀬切れには人為的な原因があるのではないか。基準点、基準渇水年、基準渇水流量を示してほしい。

等

4